

## 環境と経済の好循環によるゼロカーボンシティ実現に向けた北九州市の決意 (北九州市気候非常事態宣言)

産業都市である北九州市では、かつて、日本の経済成長に貢献する一方で、大気汚染や水質汚濁等の深刻な公害が発生しました。北九州市では、産・官・学・民が一丸となって公害を克服し、この過程で培われた経験は、「市民環境力」という北九州市のかけがえのない財産となりました。

それらを礎として、北九州市だけでなくアジア地域の環境改善に取り組むなど、国の「環境モデル都市」、「環境未来都市」、OECD の「グリーン成長都市」として、様々な環境政策に積極的に取り組んできました。そして、現在は、国から「SDGs 未来都市」の選定を受け、これまでの取り組みを発展させ、誰一人取り残さない SDGs のトップランナーを目指しています。

一方で、近年、地球温暖化に伴う気候変動によって、世界各地では記録的な熱波、大規模な森林火災、洪水等が発生しています。日本でも台風や豪雨による甚大な被害が起きており、北九州市でも、2018 年の西日本豪雨で甚大な被害を受けました。

世界はまさに「気候危機」とも言うべき状況に直面しています。このような状況の中、将来的な被害を最小限に抑えるためには、産業革命前に比べて世界の平均気温の上昇を 1.5℃までに抑える必要があり、そのためには 2050 年までに世界全体の温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること、つまり、一日も早い脱炭素社会の実現が求められています。

世界の環境政策をリードしてきた北九州市としても、2020 年10 月に、2050 年までの脱炭素社会を目指すゼロカーボンシティを宣言しました。

産業都市にとって「脱炭素社会の実現」は大きな課題ですが、脱炭素化への挑戦は、産業構造や経済社会の変革をもたらすものであり、北九州市にとって、「環境と経済の好循環」による大きな成長を遂げる機会です。

北九州市はここに「気候非常事態」を宣言するとともに、本年夏までに「北九州市地球温暖化対策実行計画」を改定し、あらゆる主体が気候変動問題への危機感を共有しながら、産・官・学・民によるオール北九州で「市民環境力」を再び結集して、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをこれまで以上に加速させます。

また、今後、「北九州市グリーン成長戦略」を策定し、北九州市の強みである風力発電を軸に蓄電池と水素を加えた 3 つの柱による脱炭素エネルギーの供給体制の構築、脱炭素イノベーションの早期実現に向けた人材育成や制度面・財政面での企業活動の後押しなど、「環境と経済の好循環」の成功モデルとなる取り組みを進めます。さらに、近隣自治体と連携した面的な取り組みやアジア地域を中心とした環境国際協力を通じて、国内外の脱炭素化に貢献していきます。

令和 3年 6月 5日

北九州市長 北橋 健治